

【普通作物】の【長雨・日照不足】対策について

<5月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稲】（分けつ期～幼穂形成期）

（１）予想される被害状況

- ① いもち病が発生しやすくなる。
- ② 中干しが十分できず、草丈が伸びやすくなる。

（２）事前対策

- ① 長雨下での液剤や粉剤防除は時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため、天候をよく確認しながら防除を行う。なお粒剤を使用する場合は、多雨での流出（オーバーフロー）に注意する。
- ② 中干し時に速やかに排水が行えるよう、溝きりを行う。

（３）事後対策

- ① いもち病の病斑を確認したら、直ちに防除を行う。

【普通期水稲】（育苗期～分けつ期）

（１）予想される被害状況

- ① 苗が軟弱徒長になりやすい。
- ② 苗立枯れ病やいもち病の病害が発生しやすくなる。
- ③ 軟弱苗を移植した場合、本田除草剤の影響を受けることがある。

（２）事前対策

- ① 育苗ハウスの換気を徹底する。
- ② 苗箱の床土が過湿とならないよう、かん水量を減らす。
- ③ 徒長した苗は、葉先を剪除する。
- ④ 移植後、余り苗はいもち病が発生しやすいので直ちに処分する。
- ⑤ 苗が軟弱な場合の本田除草剤の散布は、使用範囲の中で遅めにする。

（３）事後対策

- ① 苗立枯れ病やいもち病の防除を遅れないように行う。

【ムギ】（成熟期）

（１）予想される被害状況

- ① 湿害により生育不良となり、収量が低下する。
- ② 赤カビ病やうどんこ病等が発生しやすくなる。

（２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 赤カビ、うどんこ病等の防除

（３）事後対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② 赤カビ病やうどんこ病等の防除を行う。
- ③ 収穫時は赤カビなど被害粒の発生状況を確認し刈分けを行う。
- ④ 赤カビは収穫後も多湿条件では発生するので、速やかに乾燥する。